

日本子ども虐待防止学会（ジャプスカン）

～ いしかわ金沢大会ご報告～



2020年11月28日、29日と開催された日本子ども虐待防止学会いしかわ金沢大会は、コロナ禍の中、オンラインによる開催に変更され、発表も録画配信されました。

CRCでは公募シンポジウム、口頭発表、パネル展示と発表の場をいただきました。CRC企画の公募シンポジウムでは、「誰のニーズによる親子再構築（家族再統合）か～再構築支援における子ども・親・支援者のニーズを考える」と題し、親子関係再構築支援の軸となる「ニーズ」に焦点をあて検討を試みました。企画主旨については宮口、CRC親子プログラムの紹介及び親子・支援者のニーズについて坂口、プログラムの参加者アンケートからの分析をもとに、親が親となりゆくプロセスについて兵庫県こころのケアセンター 酒井佐枝子氏、プログラムの委託元である児童相談所から実状と支援者のニーズを大阪府中央子ども家庭センター 星野優子氏が報告を行い、指定討論者に甲南大学 北川恵氏をお迎えしアタッチメントの視点と家族再統合事業の意義と今後の課題について討論いたしました。

口頭発表では、酒井氏が筆頭演者となり、



共同演者に広島少年鑑別所の佐藤友紀氏、宮口、坂口で「親子関係再構築支援プログラム参加による親自身の親子関係を意味づけるプロセスへの支援」を発表しました。この発表では、CRC親子プログラムに参加した親の質問紙を分析した結果、「親自身への理解」や「子どもへの理解」、「親子でのやりとりの実感」などへの言及が抽出されたことなどを報告しました。

これらの取り組みは2019年度より三菱財団社会福祉事業・研究助成に採択されたことで実現しました。CRC親子プログラムがどのような効果および課題があるかを検証することを目的に、酒井氏が中心となり研究を始めています。当時、大学院生だった佐藤氏が大量のデータを入力し、酒井氏がそのデータの分析をされました。改めて親のニーズに目を向けていく機会をいただいたと感じています。

このような取り組みは、CRCスタッフだけでは実現し得なかったことです。今後も研究者の方のお力をお借りして、プログラムの効果検証を続けていきたいと思っています。

その他、大阪府岸和田子ども家庭センターの服部隆志氏企画の応募シンポジウム「アタッチメントに基づく支援～関係機関・保護者・子どもそれぞれに対して～」で、河合がプログラムの実践を発表しました。（坂口）

（株）日成アドバンス様からの贈り物



（株）日成アドバンス様には折々に子どもたちへのプレゼントをお贈りいただくなど、継続してCRCの活動にご支援いただいています。この度は、コロナ禍の時期にもかかわらず、絵本やカードゲームなどをプログラムで出会う親子のためにお贈りいただきました。また、CRC親子プログラムで使用するビデオカメラ1台も併せてご寄付いただきました。

（株）日成アドバンス様のご厚意に、職員一同、感謝の気持ちでいっぱいです。いつもCRCの活動にお心を寄せてくださり、本当にありがとうございます。